



東京部会(第8回)

日時: 2008年1月10日(木)19:00-21:15

場所: 日本大学経済学部3号館(図書館)4階会議室

参加者: 加藤(日大)、中川(日大)、篠原(同志社大)、新井(都立西高)、三枝(目黒中央中)、杉田(千葉西高)、高橋(都立拝島高)、力丸(横浜市立市場中)、鈴木(日本経済教育センター)、宮尾(国際大)〔順不同〕

【内容要旨】

まず今回のテーマ「経済を教える教師に役立つ教材作り」のたたき台として、新井、中川、宮尾、高橋の各先生より配布資料が出され、それに加えて栗原先生(信州大)の「政治・経済」の命題リストおよび力丸先生より横浜市の社会科の問題の一部も配布された。

その上で新井先生の担当で8月初めに開催予定である高校教員用の研修の内容と教材作りについて議論がなされ、以下のような方向で行うこととなった。(1)主に高校で(中学でも可能)経済を教える教師のために、経済に対する理解を確認し深めるとともに、教える上でも役立つ内容とする、(2)経済に対する考え方を鍛えるとともに、経済問題を分析する手法(たとえば需給曲線など)も解説する内容とする、そして(3)現在の日本経済の諸問題などを具体例として使ってミクロ、マクロ、財政金融などを教える内容とする。なお、詳しい日時、場所(複数箇所)、講師陣、教材の内容の詰め、および執筆陣などについては、篠原先生と新井先生を中心にできるだけ早く決めることとする。

さらに以下のような論点も出された。栗原先生の整理された命題リストのようなものを、「現代社会」について作るべき、またそのような命題に関して教師や一般の間がどれだけ合意するかを調査して教材作りに生かすべき、また需給曲線を利用すれば農業問題を始め現実の諸問題の分析が容易になることを強調すべき、ただし需給曲線については、中学はもとより高校でも教えられないケースが目立つので、これをどう分かりやすく教えるかが課題、さらに地球環境や資源問題は教師も生徒も興味を持つテーマであるが、これを経済と結び付けることはなかなか困難等々。

最後に昨年12月8日に開催された「経済教育フォーラム」のアンケート結果について鈴木氏(日本経済教育センター)より報告があり、特にパネリストを囲む意見交換会が好評で、フォーラムの参加が役立ったこと、また今後も参加したいという回答が多かったとのことであった。

(文責:宮尾尊弘)

次回開催予定: 2月8日(金)19:00-21:00、日大経済学部3号館(図書館)4階会議室

今回の議論をさらに具体的な教材作りにつなげる予定。